

鷹取山自然観察会会報

2023. 4. 9 NO. 39

鷹取山蝶類について — 2022年調査 —

2022年4月から11月までの8か月間に行った蝶類調査の結果を報告します。2014年6月に会員により月1度の蝶類調査を始めてから9年目になります。蝶は種ごとに違った食草もち、気候など環境の違いによってもすみ分けをしています。このため、地域の環境を評価するために蝶はよい指標となっています。

これまでの調査結果については、2014年の結果は会報7号、2015年の結果は会報11号、2016年の結果は会報15号、2017年の結果は会報19号、2018年の結果は会報23号、2019年の結果は会報27号、2020年の結果は会報31号、2021年の結果は会報35号に掲載されています。

三浦半島は三方を海に囲まれ黒潮の影響を受けるため、暖地性の蝶が多く分布しています。横須賀市自然・人文博物館の報告書(横須賀市博物館研究報告(自然科学)第60号)によれば、三浦半島では84種の蝶が記録されています。このうち、普通にみられる健在種は34種、近年減少または絶滅に迫いやられている減少種は27種、温暖化などで増加傾向にある増加種は7種、単発的に記録される偶産種は8種、外来種は8種となっています。

2022年の蝶類調査は、引き続き環境省「モニタリングサイト1000里地調査」に登録して行いました。調査結果は国の方にも報告し、全国状況の把握に資することになります。

1. 調査方法

調査は環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」に沿って、4月から毎月2回行いました。調査ルートは植物相調査のコースで行い、植生の違う6区間に分け調査しました(会報12号植物相調査ルート(図1と表1)を参照)。調査頻度は月2度、原則として第1及び第3金曜日に行い、調査ルートを歩きながら、目視で判別できる種は記録し、シジミチョウ科、シロチョウ科、タテハチョウ科など同定

が難しい種については捕虫網で捕獲し、図鑑により確認し、記録しました。

2. 調査結果

2022年は、15回のチョウ類調査を行いました。調査日によっては気象条件などにより出現する数に違いがありました。2022年は41種が記録できました。

調査区間の結果から見てみると、A区間は鷹取山公園内で草地の他、クヌギ、コナラの落葉樹とシイなど照葉樹もある区間です。草地にはキタキチョウ、ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモンなどが見られました。また、樹林内ではコムスジ、アカボシゴマダラ、モンキアゲハ、ヒメウラナミジャノメなどが観察されました。B区間は住宅地及び児童公園があり、アゲハの仲間やモンシロチョウ、ツマグロヒョウモンなどが見られました。C区間はシイ、カシなどの常緑樹の木々が多く、ここではヒカゲチョウやジャノメチョウの仲間が観察されました。D区間はコナラ、オオシマザクラなどの落葉樹が多い場所であり、アゲハの仲間、コムスジ、サトキマダラヒカゲ、ダイミョウセセリなどが見られました。E区間は杉林の林縁であり、ヒメウラナミジャノメなどジャノメチョウの仲間、ヒカゲチョウなどが多く見られました。F区間は畑地もある場所で、モンシロチョウ、ヤマトシジミなどが観察できました。

2022年には、アカシジミ、ジャノメチョウ、コチャバネセセリ、イチモンジチョウ、ルリタテハ、ゴマダラチョウ、ヒメアカタテハ、アサギマダラも記録でき、41種が記録できました。一方、2022年に記録できなかった蝶は、オナガアゲハ、キアゲハ、ウラナミアカシジミ、オオミドリシジミ、ミズイロオナガシジミ、ムラサキツバメ、クロマダラソテツシジミ、クロコノマチョウ、ツマキチョウ、ヒオドシチョウ、の10種でした。9年間の合計では、51種が記録されたこととなります。

鷹取山の年別記録数

(調査頻度 2014~2015年：月1回 2016~2022年：月2回)

	科・亜科	種名	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
1	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ	▼	○	◎	●	◎	◎	●	◎	●
2		オナガアゲハ	△	△	×	△	△	×	×	×	×
③		カラスアゲハ	△	▼	▼	●	◎	◎	◎	○	○
4		キアゲハ	△	×	△	△	△	×	△	×	×
5		クロアゲハ	▼	△	●	▼	○	○	○	▼	○
6		ジャコウアゲハ	▼	○	○	●	◎	◎	◎	●	◎
7		ナガサキアゲハ	△	×	△	▼	▼	▼	△	△	△
8		ナミアゲハ	▼	▼	○	○	○	○	●	○	○
9		モンキアゲハ	▼	○	○	●	◎	◎	◎	◎	○
10	シジミチョウ科	アカシジミ	△	×	△	△	△	×	×	×	△
11		ウラギンシジミ	△	▼	○	○	◎	○	▼	▼	▼
12		ウラナミアカシジミ	×	△	×	△	×	×	×	×	×
13		オオミドリシジミ	×	△	△	△	△	×	×	×	×
14		ツバメシジミ	△	○	○	○	◎	●	●	◎	◎
15		ベニシジミ	△	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	◎
16		ミズイロオナガシジミ	△	×	×	×	×	×	×	×	×
17		ムラサキシジミ	×	△	▼	▼	○	▼	○	▼	▼
18		ヤマトシジミ	◎	◎	●	●	●	●	●	●	●
19		ルリシジミ	○	▼	○	○	●	●	◎	●	◎
20		ウラナミシジミ	×	×	◎	◎	◎	●	◎	◎	●
21		ムラサキツバメ	×	×	×	×	×	△	×	×	×
22		クロマダラソテツシジミ	×	×	×	×	×	×	×	△	×
23		コジャノメ	△	◎	○	○	○	◎	○	◎	●
24	ジャノメチョウ亜科	サトキマダラヒカゲ	▼	○	◎	◎	○	●	◎	○	○
25		ジャノメチョウ	×	△	▼	▼	△	×	×	△	△
26		ヒカゲチョウ	▼	▼	○	○	○	◎	○	○	○
27		ヒメウラナミジャノメ	○	◎	●	●	●	●	●	●	●
28		ヒメジャノメ	△	▼	◎	◎	▼	▼	○	○	○
29		クロコノマチョウ	×	×	△	△	×	△	×	△	×
30	シロチョウ科	キタキチョウ	○	○	◎	◎	○	●	●	●	●
31		スジグロシロチョウ	△	△	▼	▼	◎	▼	▼	▼	▼
32		モンキチョウ	△	△	○	○	○	▼	▼	△	▼
33		モンシロチョウ	▼	▼	●	●	◎	◎	●	●	●
34		ツマキチョウ	×	×	△	△	×	×	△	×	×
35	セセリチョウ科	イチモンジセセリ	△	○	○	○	●	○	◎	◎	●
36		ダイミョウセセリ	▼	▼	○	○	○	◎	○	○	▼
37		チャバネセセリ	×	△	○	▼	○	▼	△	△	▼
38		キマダラセセリ	×	×	▼	▼	△	△	▼	▼	▼
39		コチャバネセセリ	×	×	×	△	×	×	×	×	△
40	タテハチョウ亜科	アカタテハ	△	△	▼	○	▼	▼	△	△	△
41		アカボシゴマダラ	▼	△	○	◎	○	○	○	▼	○
42		イチモンジチョウ	×	△	△	×	×	×	△	×	△
43		コムシジ	▼	▼	○	◎	○	▼	○	○	○
44		ツマグロヒョウモン	○	○	●	●	●	◎	◎	◎	◎
45		ヒオドシチョウ	×	△	×	×	×	×	×	×	×
46		ルリタテハ	×	△	▼	▼	▼	△	△	×	△
47		ゴマダラチョウ	×	×	△	△	△	×	△	△	▼
48		キタテハ	×	×	○	▼	○	▼	▼	▼	○
49		ヒメアカタテハ	×	×	×	△	×	△	×	×	△
50	テングチョウ亜科	テングチョウ	△	×	△	▼	○	▼	△	○	▼
51	マダラチョウ亜科	アサギマダラ	△	×	×	×	△	×	×	×	△

凡例 ×：なし △：1~3頭 ▼：4~10頭 ○：11~30頭 ◎：31~50頭 ●：51頭以上

なお、2022年も、調査とは別に、オナガアゲハ、クロコノマチョウ、ツマキチョウ、ヒオドシチョウの確認情報がありました。前年に各地で見られたクロマダラソテツシジミは、2022年は何故か三浦半島の記録無しでした。不思議です。毎年の蝶類調査を継続することによって、

環境の変化による蝶類への影響も把握できる可能性があります。

3. その他

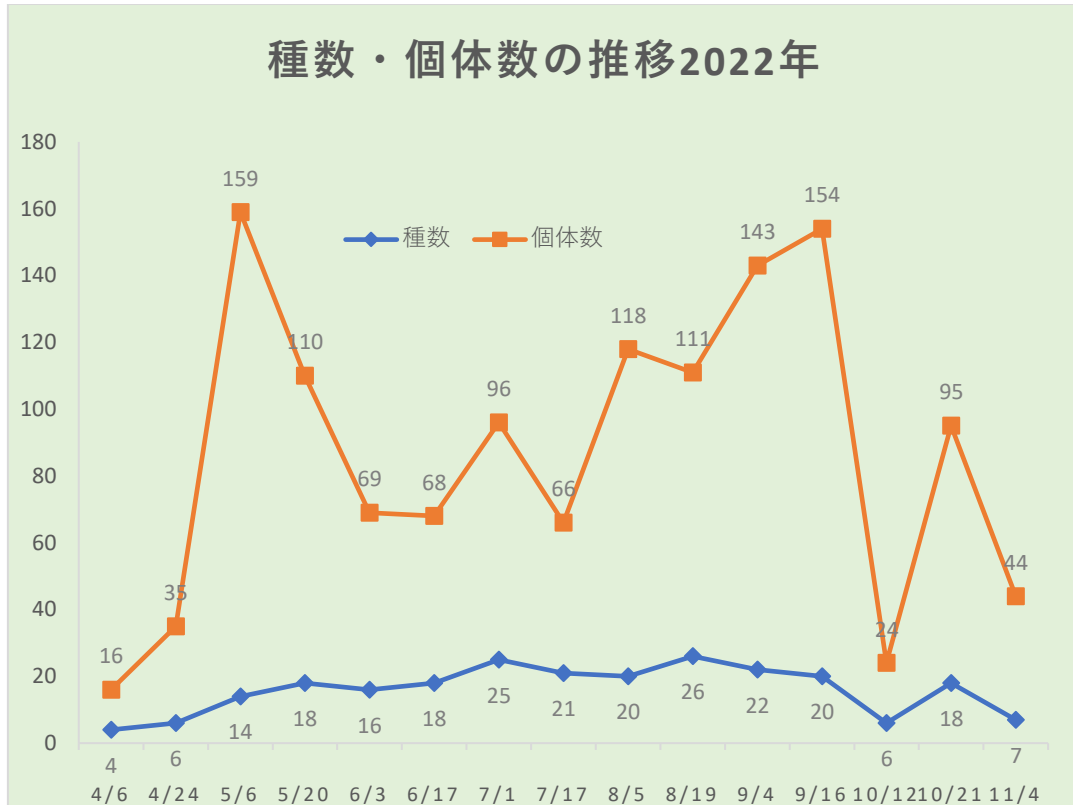
蝶類調査では、絶滅していく種やこの地域で新たに見つかる種を観察することもあるかもしれません。前述の博物館報告書による減少種の

うち、鷹取山自然観察会で9年間に記録されたものは、キアゲハ、ミズイロオナガシジミ、オオミドリシジミ、イチモンジチョウ、ジャノメチョウ、コチャバネセセリ、キマダラセセリ、ヒオドシチョウの8種になります。調査することは楽しみでもあり、調査を継続していくこと

によって、鷹取山周辺の蝶の生息状況がはっきりしてくると思います。

2022年調査に参加した人（鷹取山自然観察会）

本多久男、中村紀雄、金子龍次、伊沢昭司、市川實、大澤美恵子、星野節子、菅沼桂子、村上良二、三科清高（順不同、敬称略）



神奈川県ボランティア活動奨励賞の受賞

当会では神奈川県知事から「ボランティア活動奨励賞」を受賞しましたので報告します。表彰式は3月23日県立かながわ県民センター2階ホールで行われました。

ボランティア活動奨励賞は、地域社会や社会への貢献度が高く、他のボランティア団体等の活動のモデルとなり、今後さらに継続的な発展が期待できる活動に取り組むボランティア団体等を神奈川県ボランティア活動推進基金審査会の審査で決定しました。また、副賞として30万円を頂きました。

今回は例年になく応募が少なかったようですが、11団体の応募に対して5団体が選考されました。鷹取山自然観察会（横須賀市）の他、NPO法人相模原こもれび（相模原市中央区）、NPO法人子どもネットミュージアム（横浜市神奈川区）、子どもと親の環境教室「地球っ子ひろば」（平塚市）、一般社団法人4Hearts（茅ヶ崎市）です。



当会の選考理由の概要は次のとおりでした。

「宅地開発が進む里山地域で自然に親しむ機会をつくり、環境保全のための活動を長く積み重ねてこられたこと、特に、自然観察会にとどまらずガイドブックや生き物調査の報告書、リーフレット等の作成により情報発信を積極的に行われていることを高く評価しました。

環境保全の活動は地道に継続していくことが重要なことと考えます。これまでの活動を土台に、行政を含む地域の関係団体とも協力をとりながら、住宅地に隣接した貴重な里山環境を維持するための活動が広がっていくことを期待します。」

表彰式では、神奈川県理事よりあいさつを頂きました。



第5期モニ1000里地調査（2023～2027年度）

～みんなで楽しく調査を～

モニタリングサイト1000里地調査（以下モニ1000という）は、2005年から環境省と日本自然保護協会（以下NACS-J）が中心となって開始しました。日本の様々な生態系の動態を100年の長期にわたりモニタリングし、生態系及び生物多様性の保全を目的とした事業です。現在、全国約220ヶ所の一般サイトで、市民を主体とした調査を行っています。当会は第3期の途中2016年にサイト登録していて、神奈川県では23ヶ所、横須賀市では鷹取山と光の丘水辺公園の2ヶ所で行われています。

調査項目は、植物相、鳥類、中・大型哺乳類、水環境、カヤネズミ、カエル類、チョウ類、ホタル類、植生図の9項目で、当会では植物相、鳥類、チョウ類の調査をしています。2023年から第5期調査がスタートします。調査に参加される方は次の注意事項を守り、調査していただくようお願いします。

注意事項

1. 調査は会員が行い、連絡担当係の指示に従い、会員同士楽しく行ってください。

また、マナーを守り、公園管理者、民地地権者、ハイカーなど迷惑のかかることは行わないでください。調査では、モニ1000の腕章を必ず着けること。

2. 調査に当たっては、植物相、蝶類、鳥類の各調査マニュアルを必ずご覧ください。調査マニュアルはNACS-Jのweb「モニタリング1000里地調査：マニュアル・調査票」を検索ください。

3. 調査員は、ケガなどしないよう服装、靴などに留意するとともに体調に十分注意してください。

万一、調査中にケガなどした場合は、ボランティア活動保険の手続きをとるので連絡担当者へ報告すること。参加される方はボランティア活動保険に必ず加入してください。



4. 調査日は連絡担当者が指定した日に行います。

- (1) 植物相調査 通年第2金曜日
- (2) 蝶類調査 4～11月の間第1、3金曜日
- (3) 鳥類調査 越冬期として12～3月は原則第1、3金曜日、繁殖期として5月6月の第4金曜日、6月第2火曜日

雨天の場合は次の日曜日に順延、更に水曜日に順延します。

5. 調査データの公表は、環境省などへの許可は必要としないが、発表により貴重種、絶滅危惧種などが盗掘に合う恐れなどあるため慎重に行うこと。原則として行政機関等外部への公表は鷹取山自然観察会として行います。

6. 調査データは、年2回 NACS-J へ提供する。また、年1回調査員名簿を提出します。
前期 1~7月分 8月末提出
後期 8~12月分 翌1月末提出
7. 調査員は貴重種などの保護のため、調査で知り得たラン科、ユリ科などの調査結果を、第三者に口外しないこと。また、植物保護のため自然観察会では貴重種などの紹介はしないよう注意すること。なお、調査などで知り得たデータは会員で共有してください。
8. 各調査では、NACS-J との連絡係、同定係を配置し、記録係は持ち回りでを行います。

植物相調査 (連絡係) 本多
(同定係) 金子、小池 (記録係) 持ち回り

蝶類調査 (連絡係) 本多
(同定係) 三科 (記録係) 持ち回り

鳥類調査 (連絡係) 本多
(同定係) 本多 (記録係) 持ち回り

9. 調査は、鷹取山自然観察会会員で行う。ただし、会員の技術向上を図るため専門家を招待することもできます。

10. 2023. 4. 1 変更

鷹取山の植物画 ~ボタニカルアート~

前回に引き続き、内田彰さんの鷹取山の植物画を掲載します。今回は鷹取山では普通にみられる春の野草

として、シャガ、ウラシマソウ、ハンショウヅル、カンアオイを紹介します。



シャガ アヤメ科、比較的薄暗いところに群生し、鷹取山では普通にみられる。



ウラシマソウ サトイモ科で仏炎苞の先に釣り糸の様な細長いひも状のものが伸びている。



ハンショウヅル 5月頃に名前のように半鐘型の暗赤色の花をつける。



カンアオイ 花は枯れ葉の下に隠れている。この辺ではカントウカンアオイという。

俳句

小島常義さんの俳句です。自然観察会に参加した際に作った俳句を投稿していただきました。その中から三句紹介します。

三月のテーマ

「早春の野草をさがしてみよう」

まだうすき日差し大事に花はこべ

四月のテーマ

「春に咲く花を見つけよう」

林床にともしほうちやくそう小さき灯宝鐸草

五月のテーマ

「オトシブミをさがしてみよう」

小さき虫はたくみ匠の「とく落し文



コハコベ



ホウチャクソウ



オトシブミ

竹の花が咲きました

タケはイネ科タケ亜科に属する常緑性の多年生植物で、古来より、日本人にとって身近な植物です。また、松竹梅に代表されおめでたい植物でもあります。

鷹取山でハチク（淡竹）と思われる竹の花が咲きました。竹の開花周期はモウソウチクで60年、マダケは120年、ハチクの場合は、古文書などの過去の開花記録により、開花周期は60年または120年と推定され、直近では1908年前後に開花したと報告されていて2020年代が開花時期と予想され、各地でハチクの開花が報告されています。県内でも1月8日付け朝日新聞に鎌倉で竹の花が咲いた記事が掲載されていました。

タケの花は写真のようにイネ科の花とよく似ています。竹の花穂がいくつも連なった形でつき、一つの花穂の先端に雄しべが垂れ下がっています。雌しべは穎の中に隠れるように付いていて、ほとんど見えない状態です。その構造はまさにイネの花とそっくりで、竹類がイネ科の仲間であることがわかります。また、竹は地下茎で繋がっているため、竹の花が咲くと、一斉に枯れることから、「不吉の象徴」といわれることもあります。科学的根拠はないようです。竹の開花の仕組みは謎が多いようです。

イネ科では、開花すると種子を実らせるのが一般的ですが、竹はほとんど種子が実らないといわれています。今後、竹の種子ができるか、観察していきたいと思います。
(本多 久男)



2023. 3. 15 撮影

春の虫ビロードツリアブ

春先に鷹取山を歩いていると、ホバリングしているビロードツリアブに良く会います。空中で静止しているように見え、「吊り虻」と呼ばれます。短い毛の生えたモフモフの体をしているので、ビロードツリアブというのはピッタリの名前だと思います。

アブの仲間には1年中見られるものも多いのですが、ビロードツリアブが見られるのは春だけです。良く目立つ長い口吻を使い、スマレの距からも蜜を吸うことができます。オオイヌノフグリ、クサイチゴなど、色々な花で蜜を吸います。beeflyという英語名は、花に来るマルハナバチに似ているからでしょうか。かわいらしい外観にそぐわず、幼虫は土中のヒメハナバチの幼虫に寄生して育つそうです。地面がむき出しの路で良く見かけるのは、そのことと関係があるのでしょうか。



短い春の間に産卵しなければならないので、交尾している姿も良く見られます。複眼が大きくて両眼がくっついている方が雄、離れている方が雌です。交尾中も上手く飛びます。
(三科 清高)

鷹取山自然観察会のご案内

2023 年度自然観察会の予定

鷹取山自然観察会では、自然とのふれあいを大切にして季節ごとの様々な生き物を観察しています。日程は表のとおりです。初めての方もお気軽にご参加ください。

日 程	観察会のテーマ	集合場所
4月 9日 (日)	春に咲く花を見つけよう	京急田浦駅
5月14日 (日)	オトシブミを見つけよう	追浜駅
6月 4日 (日)	初夏に咲く花を観察しよう	神武寺駅
7月 9日 (日)	蝶とその食草を探してみよう	追浜駅
8月 6日 (日)	セミやバッタの観察をしてみよう	京急田浦駅
9月10日 (日)	鷹取山の秋の七草は何でしょう	追浜駅
10月 8日 (日)	コオロギなど鳴く虫を探してみよう	追浜駅
11月12日 (日)	野菊の違いを観察しよう	京急田浦駅
12月10日 (日)	落ち葉の種類を見分けよう	追浜駅
1月14日 (日)	冬を越す樹木とロゼットを観察しよう	追浜駅
2月11日 (日)	冬鳥の観察と冬芽を観察してみよう	京急田浦駅
3月10日 (日)	早春の野草を探してみよう	追浜駅

注) 観察会のテーマは変更する場合があります。直近の情報ご確認ください。

- ◆集合場所：集合場所駅改札出口9時20分集合30分出発
観察会は12時まで現地解散小雨は決行。大雨の場合は翌週の日曜日に延期します。(延期の場合は朝7時までメールで連絡します。)
- ◆参加費：会員100円、非会員200円(保険料・資料代)小学生100円、未就学無料
- ◆定員：20人、先着順
- ◆申込方法：住所、氏名、電話番号(保険加入のため)メールアドレスを記入して、下記のアドレスまで申し込みください。小中学生は学年をお知らせください。
- ◆持ち物：歩きやすい服装、メモ帳、鉛筆、飲み物、あれば虫眼鏡及び双眼鏡
- ◆注意事項：コースの途中には坂道、足場の悪い場所もあるため滑りにくい靴で参加下さい。新型コロナ対策としてマスクの着用、ソーシャルディスタンスなど感染対策に配慮ください。

- ◆主催：鷹取山自然観察会

《問い合わせ・申込み先》

メールアドレス takatori_0721@nifty.com

